

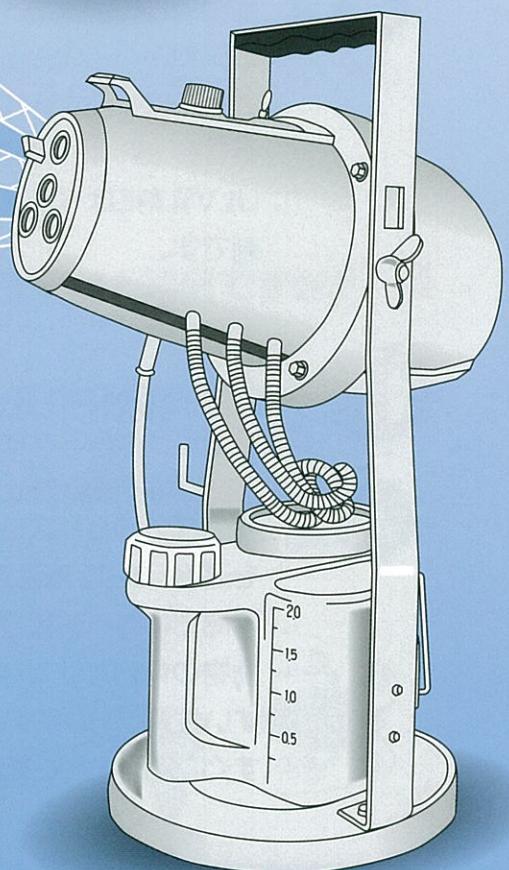
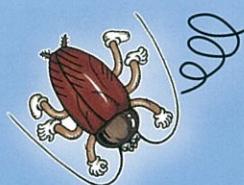
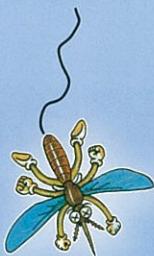
金鳥ULV乳剤E

金鳥ULV乳剤S

ULV噴霧専用薬剤



&





Q.1 ULVとは何ですか？



ULVとは Ultra Low Volume の略称で、**濃厚少量噴霧**を意味します。

少量の濃厚な薬液を昆虫に付着しやすい大きさの粒子(**20μm以下**)にして、**空間噴霧**する方法です。

短時間の処理で高濃度の薬液が空中に漂うことによって、隅々まで薬剤が到達し、害虫駆除に極めて有効で、しかも省力的です。

なお、濃厚な薬剤を噴霧しますので、殺虫効力が高く、安全性に優れたピレスロイド系殺虫剤のみが専用薬剤として認可されています。



Q.2 ULV噴霧には、なぜULV乳剤E、ULV乳剤Sを使う必要があるのですか？



専用の装置を用いてULV噴霧できる薬剤は、厚生労働省によって承認されたULV乳剤EとULV乳剤Sだけです。

ULV乳剤E、ULV乳剤Sは、一般用医薬品の中の第2類医薬品としてリスク区分されます。

エクスミン乳剤、スミスリン乳剤は防除用医薬部外品で、ULV噴霧には使用できません。

ULV噴霧には、ULV乳剤E、ULV乳剤Sをご使用ください。



Q.3 ULV乳剤E・ULV乳剤S(ピレスロイド)とは何ですか？



除虫菊(シロバナムシヨケギク)に含まれる天然殺虫成分を**ピレトリン**と呼びます。

ピレスロイドはピレトリンの化学構造式に似た化合物のグループの総称です。

ピレスロイドの優れた特長として、速効性であること、致死効力が高いこと、忌避効果があること、追い出し効果があること、安全性が高いことなどが挙げられます。

ULV乳剤Eはペルメトリン、ULV乳剤Sはフェノトリンを有効成分とした濃厚少量噴霧用殺虫剤です。



Q.4 ULV乳剤E・ULV乳剤S(ピレスロイド)の安全性について



有効成分のピレスロイドは害虫の表皮や口などから体内に入り、神経に作用しマヒさせて虫を退治します。**哺乳類の体内では分解酵素の働きで、ピレスロイドは速やかに分解され、短時間で体外へ排出されます。**

動物の体内だけでなく自然界においても、光、空気、熱に触れると他の殺虫剤よりも分解しやすい性質があります。つまり、必要な時に必要な場所で効力を発揮して、その役目が終われば、すぐに分解されて消えていくという環境にも優しい殺虫剤です。

Q.5 水性乳剤はどのような特長がありますか？

A.5 水性乳剤は有機溶剤を使わず、有効成分、精製水と界面活性剤からなる乳剤です。
引火性、臭気、刺激性、汚染等が殆どないという特長があります。

Q.6 ULV乳剤E、ULV乳剤Sはどのような害虫の駆除に使用するのですか？

A.6 ハエ成虫、蚊成虫、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニの駆除に使用します。

Q.7 ULV乳剤E、ULV乳剤Sはどのように使用するのですか？

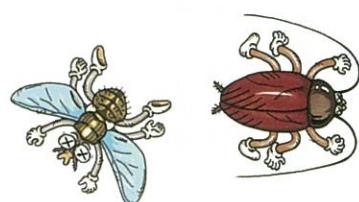
A.7 害虫の生息している場所に、原液のまま又は水で2倍あるいは4倍に希釈し、ULV専用の噴霧機で**20μm以下**の薬剤粒子にして空間噴霧します。
噴霧後、室内を4~6時間、できれば一夜密閉してください。

Q.8 ULV乳剤E、ULV乳剤Sを空間噴霧する際、火災報知器やガス警報器が反応しますか？

A.8 火災報知器のうち、熱感知器は作動しませんが、煙感知器は作動する場合があります。
ガス警報器のうち、高性能の微粒子感知タイプは作動することがあります。
ご使用の際には、煙感知器および微粒子感知タイプのガス警報器はポリ袋などで覆い、セロハンテープ等で押さえ、カバーをしてください。

Q.9 ULV乳剤E、ULV乳剤Sを使用の際、特に注意することは何ですか？

A.9 ULV乳剤E、ULV乳剤Sの有効成分ペルメトリン、フェノトリルはピレスロイド系殺虫剤です。
ピレスロイドは魚類に対する毒性が高いので、生け簀や水槽がある場所では使用しないで下さい。また、生け簀や水槽に使われるプロア(酸素供給装置)が殺虫剤を吸い込まないように注意して下さい。



有効成分

フェノトリン……10g(100g中)

効能・効果

ハエ成虫、蚊成虫、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニの駆除

用法・用量

害虫の生息している場所に、原液のまま、または水で希釈し、濃厚少量噴霧機で20ミクロン以下の薬液粒子にして空間噴霧して下さい。

噴霧後、屋内を4~6時間できれば一夜密閉して下さい。

適用害虫	希釈倍数	使用量
ハエ成虫、蚊成虫、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニ	原液	1m ³ あたり0.4ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり1ml)
	2倍	1m ³ あたり0.8ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり2ml)
	4倍	1m ³ あたり1.6ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり4ml)

用法・用量

広い範囲の衛生害虫に有効で、優れた速効性と致死効力を合わせ持ち、特に安全性が高いため、病院、ホテル、食品工場、車両、船舶などのULV施用に安心して使えます。

容量

1ℓ(缶) ……1ケース入数10缶

6ℓ(缶) ……1ケース入数3缶

6ℓ(缶) ……1ケース入数1缶

18ℓ(缶) ……1ケース入数1缶

有効成分

ペルメトリル……5g(100g中)

効能・効果

ハエ成虫、蚊成虫、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニの駆除

用法・用量

害虫の生息している場所に、原液のまま、または水で希釈し、濃厚少量噴霧機で20ミクロン以下の薬液粒子にして空間噴霧して下さい。

噴霧後、屋内を4~6時間できれば一夜密閉して下さい。

適用害虫	希釈倍数	使用量
ハエ成虫、蚊成虫、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニ	原液	1m ³ あたり0.4~0.6ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり1~1.5ml)
	2倍	1m ³ あたり0.8~1.2ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり2~3ml)
	4倍	1m ³ あたり1.6~2.4ml(高さ2.5mとして床面積1m ² あたり4~6ml)

用法・用量

殺虫力、残効性に富み、しかも安全性が高い製剤で、複雑な構造物に生息するゴキブリなど衛生害虫全般のULV施用に適しています。

容量

1ℓ(缶) ……1ケース入数10缶

6ℓ(缶) ……1ケース入数3缶

6ℓ(缶) ……1ケース入数1缶

18ℓ(缶) ……1ケース入数1缶

【使用上の注意】

(1)薬剤を口や目に入れないで下さい。

(2)小分けしたり、水で希釈するときは、食品用の容器等、誤用の恐れのあるものを利用しないで下さい。

(3)希釈の際は、水ではなく逆らないように均一に攪拌し、直接手でかき混ぜるようなことはしないで下さい。希釈する容器は専用のものとし、他と併用しないで下さい。

【相談すること】

万が一、誤って薬剤を飲み込んだ場合は、吐かせす直ちに医師の診療を受けて下さい。薬剤の使用により頭痛、目や瞼の痛み、咳、めまい、吐き気、自分が悪くなった場合などには、直ちに使用を中止し、清潔な空気の場所で安静にして、医師の診療を受けて下さい。医師の診療を受ける際には、本剤がピレスロイド系の殺虫剤であること、および使用薬剤の名称、成分名、症状、被曝状況について出来るだけ詳細に医師へ告げて下さい。

●使用に際しての注意

(1)定められた用法、用量を厳守して下さい。間違った使い方をされた場合、生じた事故についての責任は負うことができません。

(2)アレルギー症状やかぶれ等を起こしやすい体质の人は、薬剤に触れたり作業に從事しないで下さい。

(3)病人、特異体質者、妊娠、乳幼児などは、薬剤の影響のない場所に移動させて下さい。

(4)使用目的以外の環境に影響を及ぼさないために乱用を避け、養魚池、井戸、地下水等を手洗いする恐れのある場所、宿館、寮(寮)、水槽生物等に被害を及ぼす恐れのある場所では使用しないで下さい。

(5)食品、食器、おもちゃ、愛玩動物、飼育魚、飼料、器具、衣類等はあらかじめ他へ移すかるい場合は格別に、薬剤がかられないないようにして下さい。

(6)保護具(長袖の作業衣、作業帽、保護メガネ、保護マスク、保護靴、ゴム手袋など)および使用する噴霧器は、あらかじめよく点検整備して使用して下さい。

(7)使用に際しては、必要量だけを分取し、その都度使い切って下さい。

(8)本剤と他の薬剤とをむやみに混ぜたり、加熱したりしないで下さい。

(9)適正な粒子を得ため、濃厚少量噴霧器の選択について十分にご留意下さい。

(10)希釈した液は不安定なので、その都度必要量を調整し、また、直射日光の下に放置しないで下さい。アルカリ性の下では分解しやすいので、石けん等の洗剤等の是非を防いで下さい。

(11)0℃以下では凍る場合があるので、この際は温湯であたためてから、振とうした後に使用して下さい。(あたためる際は、必ず容器の栓をはずして下さい。)

(12)塗装面や合成樹脂の中には、薬剤によって侵されやすいものがあるので注意して下さい。また、濃厚希釈液の場合は、植物にかかると枯れることがあるので注意して下さい。

(13)大理石やしづくい、白木等に薬剤が付着した場合は、変色、変形することがあるので注意して下さい。

(14)●使用中又は使用後の注意

(1)保護具を必ず着用し、身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないようにするとともに、できるだけ吸い込まないように注意して下さい。また、長時間の作業は避け下さい。なお、噴霧後は、室内の空気を外気と交換させた後入室して下さい。

(2)薬剤の調整、散布中は喫煙、飲食をしないで下さい。使用中又は使用後にトイレに行くときは、手や顔をよく洗ってから行って下さい。

(3)使用した後、あるいは皮膚に付いたときは、石けんと水でよく洗い、水でよく洗い流して下さい。作業中に大量の薬剤を浴びた場合には、直ちに汚染した衣類を脱ぎ、シャワーを浴びるなどして体に付着した薬剤を洗い落とし、清潔な衣類に替えて下さい。また、必要に応じて、医師の診療を受け下さい。

(4)本剤は魚毒性が強いので屋内の水槽や屋外の河川、池等へ直接かかるよ

うな散布は避けるとともに、使用後残った希釈液や散布に用了した器材および使用済みの空容器を洗った後は、魚等が生息している場所に捨てないで下さい。

(5)薬剤処理に用了した機械器具や使用済容器等は石けん水でよく洗い、特に噴霧器はよく手入れしておいて下さい。また、小児が器材等に触れないようるようにするとともに、洗浄海水や使用残液は作業現場から持ち帰り、処分に当たっては自治体の条例や指導に従って処分して下さい。河川、湖沼、下水道等の水域や、地下水を汚染する恐れのある地中には捨てないで下さい。

(6)作業時の衣服は、他の衣服と区別して洗濯し、保護具も洗剤でよく洗って下さい。

(7)使用済みの空容器等は、石けん水でよくすすぎ、適切に処分して下さい。

(8)使用空缶は鉄クズ回収業者に処理を任せ、空缶を他目的に使用しないで下さい。

●保管上の注意

(1)使用後、残った薬剤原液は、ラベル表示のある元の容器に密封し、施錠できる貯蔵庫で他のものと区別して保管して下さい。また、関係者以外触れないようにして下さい。

(2)食品、食器、飼料等と区別し、小児の手の届かない冷暗所に保管して下さい。

●その他の注意

(1)漏洩した場合には、次のように処理して下さい。

(2)吸収性的媒体、例えば砂、軽石、ホーリー、オガクスなどに吸着させ、広がりを阻止して回収して下さい。

(3)火災の危険が生じた場合には、すべての火元を止め、火災の誘発を防止する処置をして下さい。

(4)漏洩した薬剤が井戸、池、河川などの水系に流入した場合には、直ちに警察等に通報して下さい。

(5)使用に際してのご不明な点や事故等があった場合は、製造販売元へ連絡して下さい。